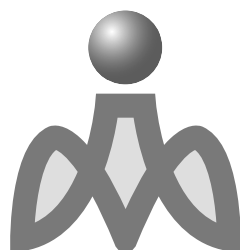


山 梨 県

商工会地区

# 中小企業景況調査報告書

〔平成17年7月～9月実績〕  
〔平成17年10月～12月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会



# 目 次

I 調 査 要 領 .....	1
II 景 況	
1. 産業全体の景況概況 .....	2
2. 製造業の動向	
(1) 景況概況 .....	3
(2) 主な項目でみる業況 .....	3
3. 建設業の動向	
(1) 景況概況 .....	6
(2) 主な項目でみる業況 .....	6
4. 小売業の動向	
(1) 景況概況 .....	9
(2) 主な項目でみる業況 .....	9
5. サービス業の動向	
(1) 景況概況 .....	12
(2) 主な項目でみる業況 .....	12



## 【I】 調査要領

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 10商工会
- (2) 対象企業数 165企業
- (3) 回答企業数 165企業

### 2. 調査対象期間

- 第3四半期 平成17年10月～12月期
- 調査時点 平成17年12月5日

### 3. 調査方法

県下の調査対象企業を10商工会の経営指導員が訪問面接調査

### 4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	計
塩山市	4	2	6	3	15
都留市	4	2	6	3	15
南アルプス市	4	2	6	3	15
北杜市	4	2	6	3	15
笛吹市	8	4	12	6	30
鵜沢町	4	2	6	3	15
身延町	4	2	6	3	15
田富玉穂	4	2	6	3	15
河口湖	4	2	6	3	15
上野原町	4	2	6	3	15
計	44	22	66	33	165

### 5. その他

本報告書のD I値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

## 【Ⅱ】 景 況

### 1. 産業全体の景況概況

売上額の指標は、今期は「製造業」「建設業」「小売業」では上昇しており「サービス業」では下降した結果となっている。

「製造業」では平成16年7～9月期を頂点として連続4期下降又は横這いの右肩下がりの傾向であったが今期は大幅に上昇して、前年同期と同じ景況感となった。

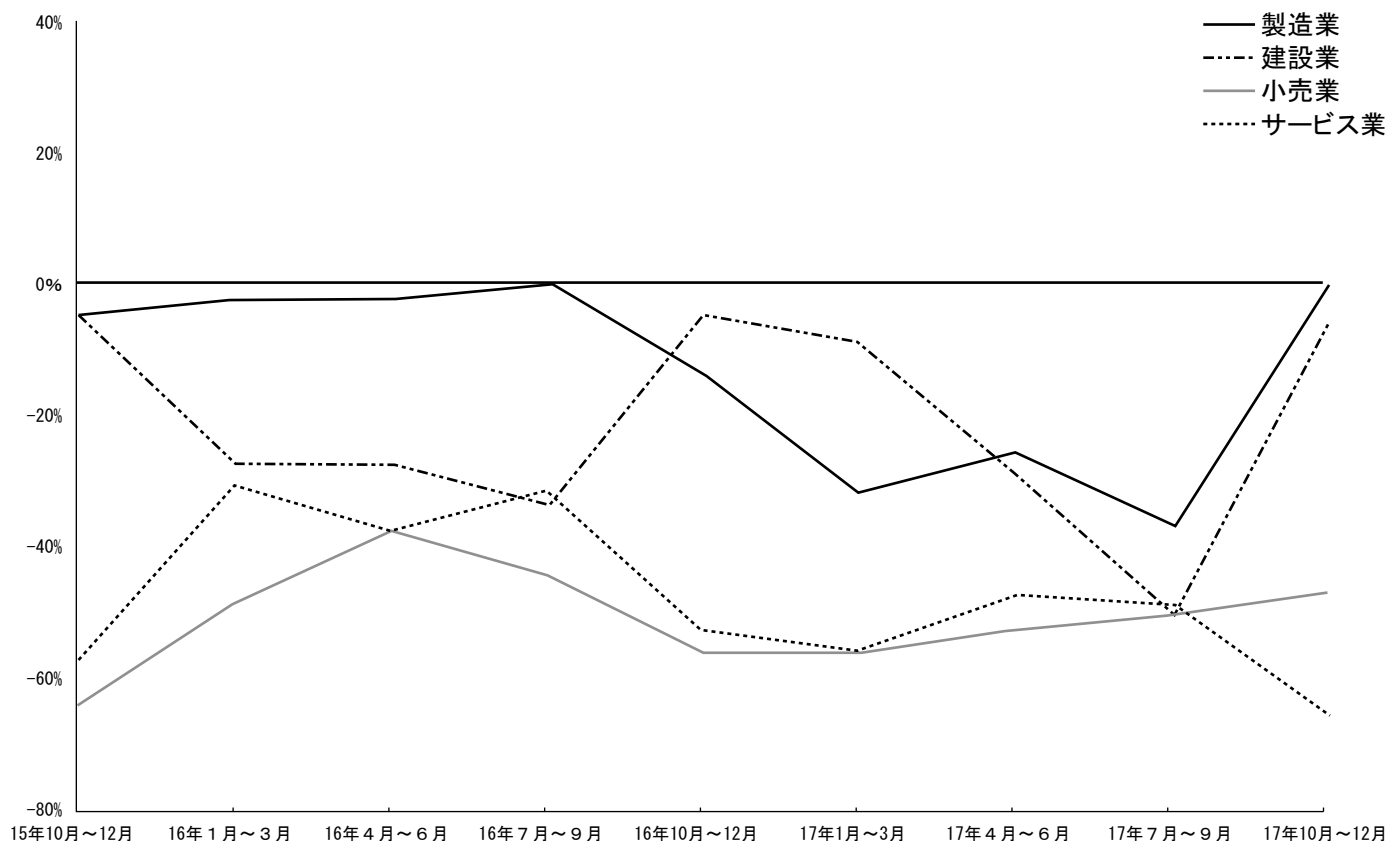
「建設業」でも、今期は大幅に上昇して前年同期まで近い水準となっている。企業の設備投資等で民間需要がある程度改善してきていることが推察される。

「小売業」では売上額の指標は上昇したものの、上昇幅は若干であり、低水準のままで推移している。

「サービス業」では他業種と異なり売上額の指標は大きく下降した。全国的な景況感の回復もあり今後の需要の増大が期待される。

山梨県 全産業DI

売上（完成工事）額の推移 ー前年同期比ー



## 2. 製造業の動向

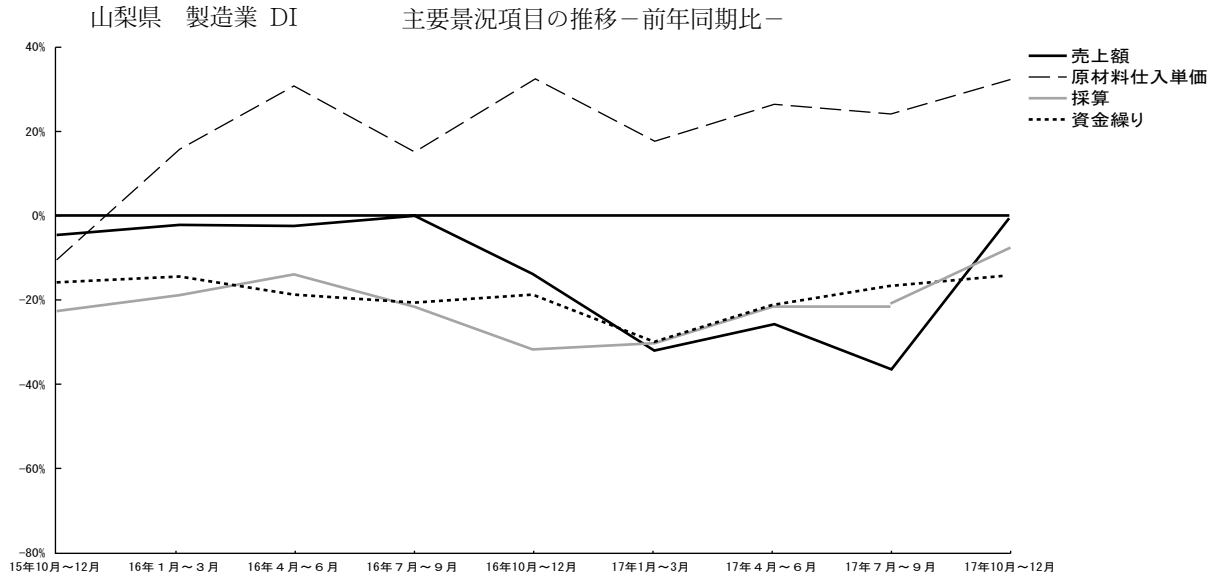
### 1. 景況概況

「売上額」の指標は、今期は+36.4と大幅に上昇して前年7～9月期と同水準の0となった。輸出関連企業を中心に大手製造業では、引き続き景気は好調であると言われており、県内の中小製造業でも実感として好調となっているものと思われる。

「原材料仕入単価」は今期は+8.1上昇して32.4となっている。平成16年1～3月期より継続して前年同期比を上回っており、高い価格で長期にわたって推移していることから今後も注視していく必要がある。

「採算」は前期より+13.9上昇して-7.0となった。売上高の改善に連動しており、平成16年10～12月期以降連続4期にわたって改善した結果となっている。

「資金繰り」は+2.7上昇して-13.9となった。



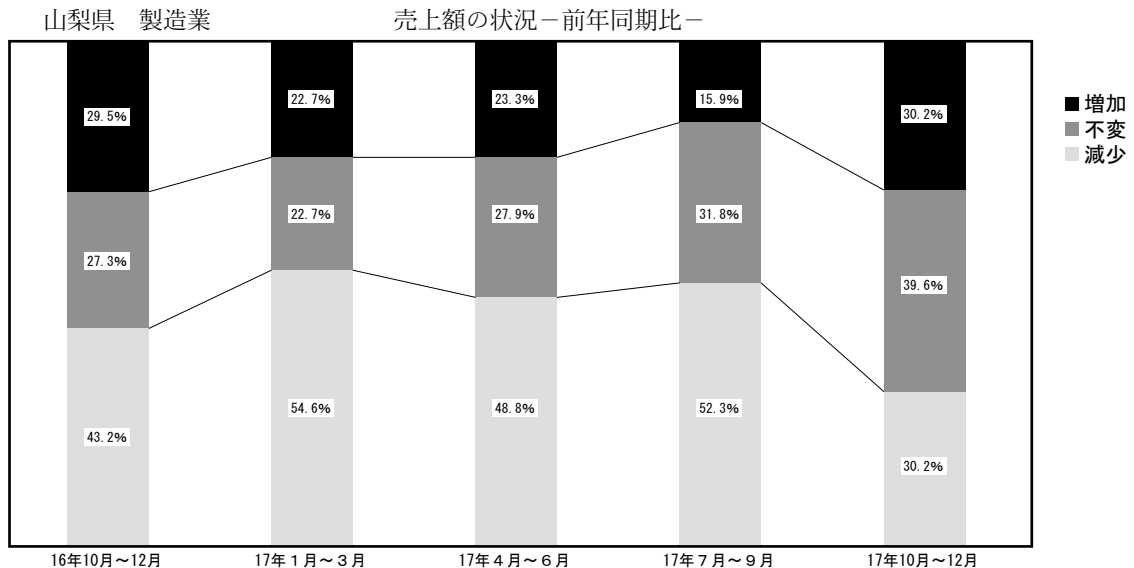
### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

前期（平成17年7～9月期）より+36.4と大幅に上昇して前年7～9月期と同水準の0となった。

株価は引き続き上昇傾向であり大企業を中心に景気は回復しつつあると各種指標では報告されているが、本県の中小企業でも好調な景況というのが実感となってきている。

県内製造業の状況は（財）やまなし産業支援機構の「中小企業景気速報」平成17年12月号よると、県内下請企業の景況は、半導体、液晶装置関連部品で忙しいとする企業も多く、また自動車、工作機械部品等でもまずまずの受注量を抱えるなど、企業間・取り扱い品目による格差はあるものの、全体的には穏やかな改善傾向が続いていると報告している。



(2) 採 算

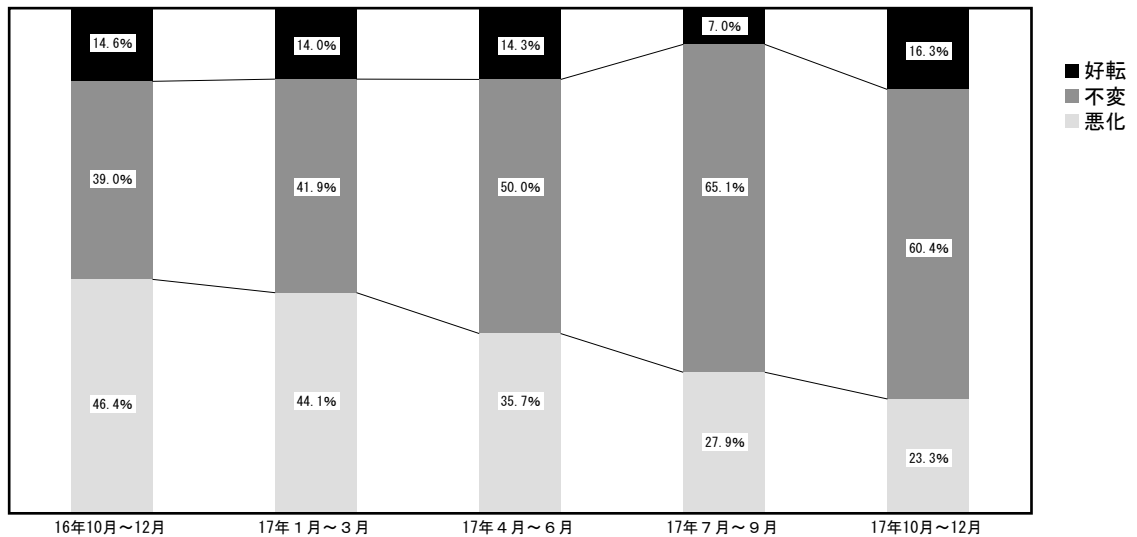
売上高の改善に連動しており、前期より+13.9上昇して-7.0となった。原材料仕入れ単価は平成16年1～3月期以降高い水準で推移しているものの、採算は平成16年10～12月期を底として連続4期改善傾向とはなっている。

「従業員（含臨時・パート）」は今期は+4.4上昇して9.3と増加傾向となっている。

景況は機械電子業を中心におおむね好調ではあるが（財）やまなし業支援機構の「中小企業景気速報」平成17年12月号よると、家具関係、ニット・縫製関係、貴金属装総地関係などの地場産業の分野では、業況は依然激しい状況であると報告している。

山梨県 製造業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

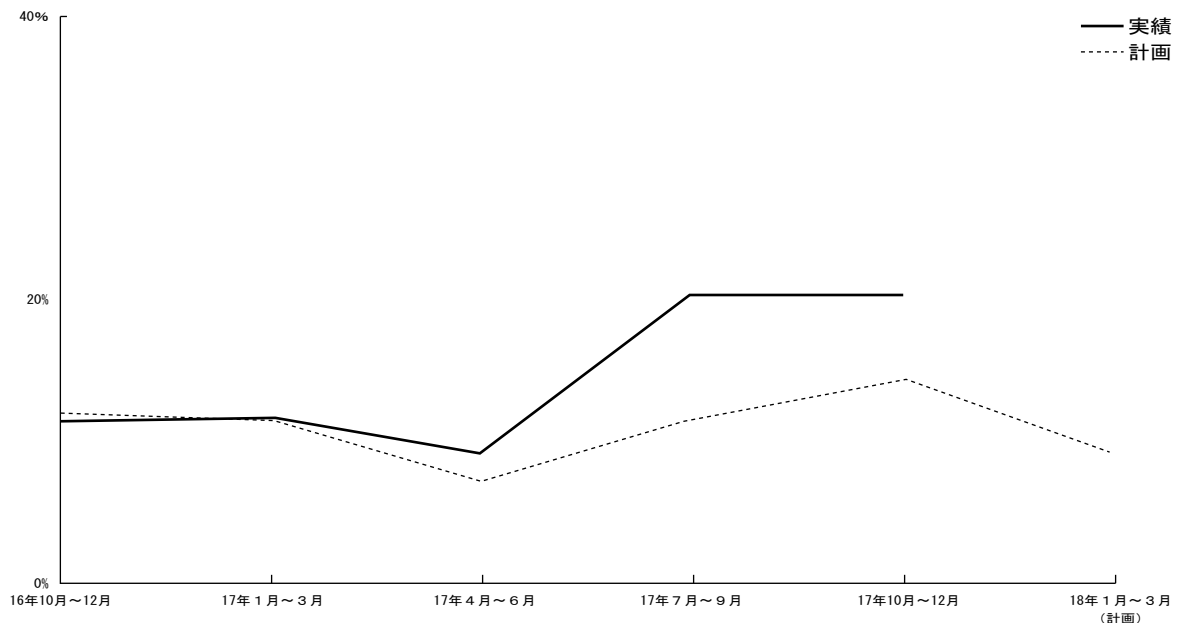
「今期実施」は、前期と同様な水準であり20.5%の企業が実施した。今期も計画していた企業は14.3%であったので実施した企業のほうが多いという結果であった。

設備投資した内訳は「生産設備」が77.8%であった。「付帯施設」、「OA機器」、「その他」はいずれも11.1%であった。「車両・運搬具」については計画はしていたものの実施までには至らなかった。

「来期実施予定」は9.1%と、今期の計画より減少する予定である。

山梨県 製造業

設備投資の状況





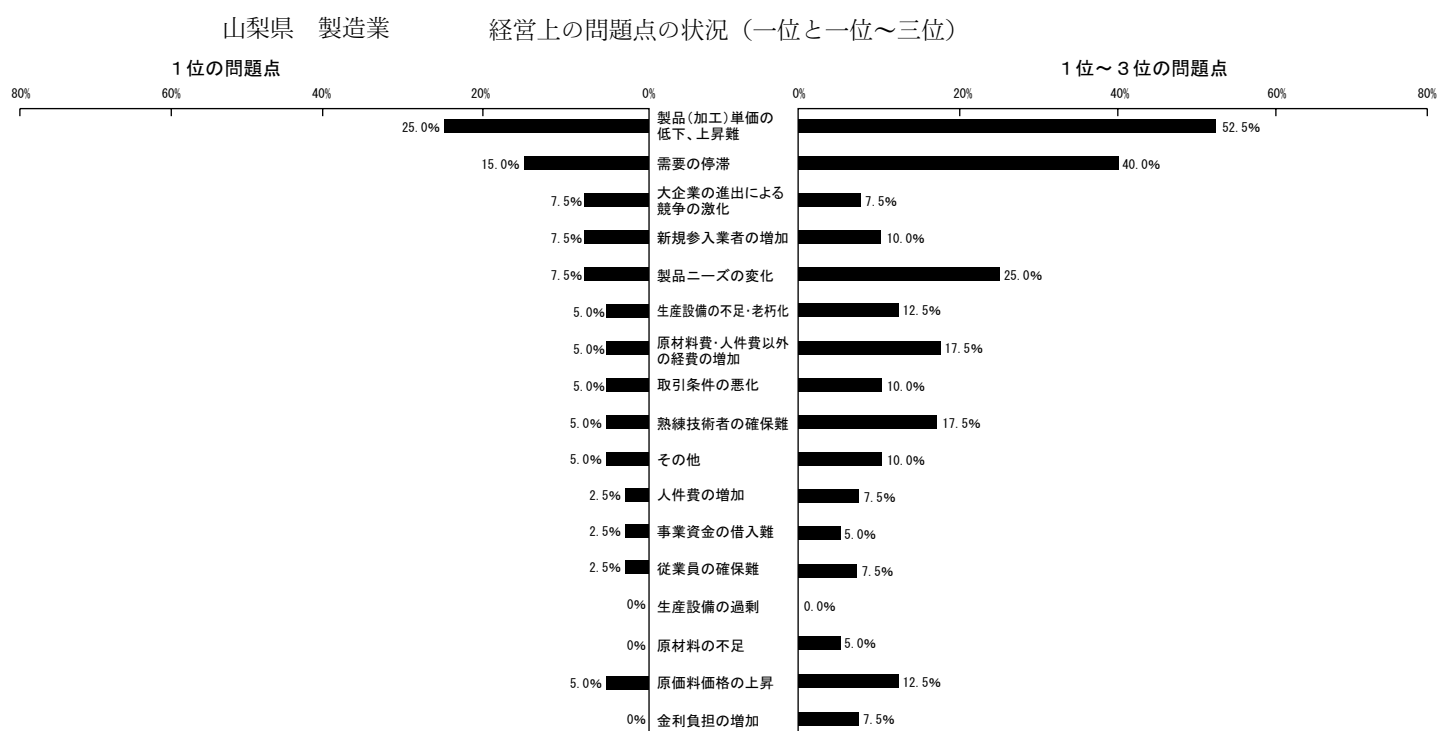
(4) 経営上の問題点

「製品（加工）単価の低下、上昇難」が△0.6%下降して25.0%と1番多い項目となっている。生産技術の改善でコストの削減を定常的に考えていくことが必要と思われる。

「需要の停滞」は前期より△10.6%大幅に下降して15.0%となったが2番目に多い項目となっている。株価の上昇にともなって企業も操業度が高くなっているものと思われる。

問題点の1位から3位までに挙げられる項目では「製品ニーズの変化」が+0.6%増加で25.0%と3番目に多い項目となっている。

又「熟練技術者の確保難」は前期より△3.0%下降したが17.5%となり「原材料費・人件費以外の経費の増加」と共に4番目に多い項目となっており、新たな問題点として増加しつつある。



### 3. 建設業の動向

#### 1. 景況概況

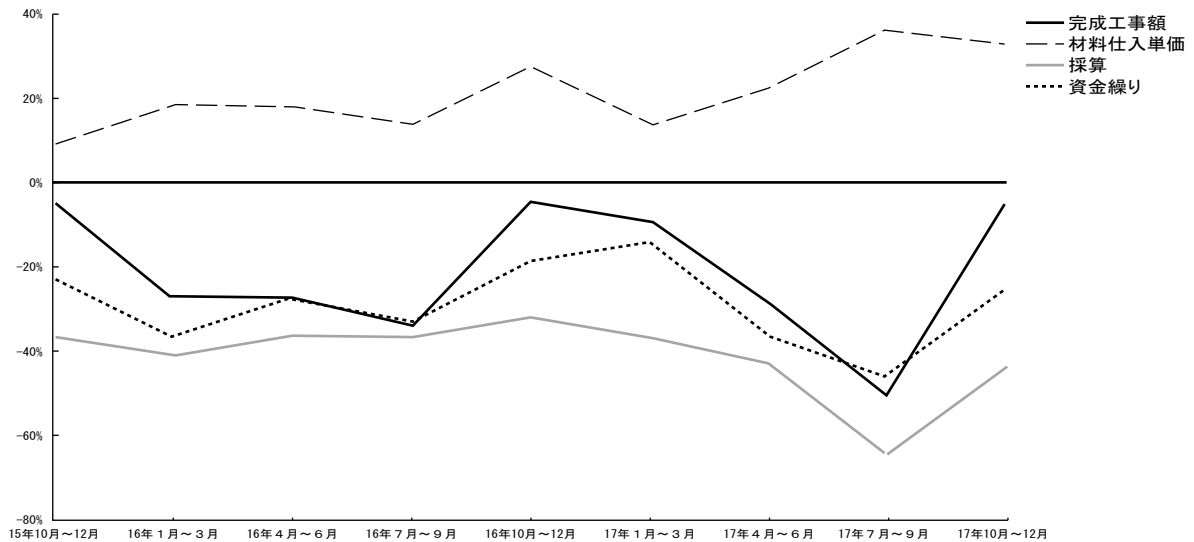
「完成工事額」は前期（平成17年7～9月期）より+45.3と大幅に上昇して-4.7と改善した。製造業を中心とした全国的な好況感に県内中小建設業も連動した結果になっているものと見られる。

「材料仕入単価」は今期は△3.1下降して33.3となっているが、前年同期と比較すると依然として高い水準で推移している。

「採算」は完成工事高が好調であるのに連動して+20.7上昇して-42.9となっているが回復のテンポはゆるやかである。

「資金繰り」は今期は同じく完成工事額の好調に連動しており+21.7上昇して-23.8となっている。

山梨県 建設業 DI 主要景況項目の推移－前年同期比－



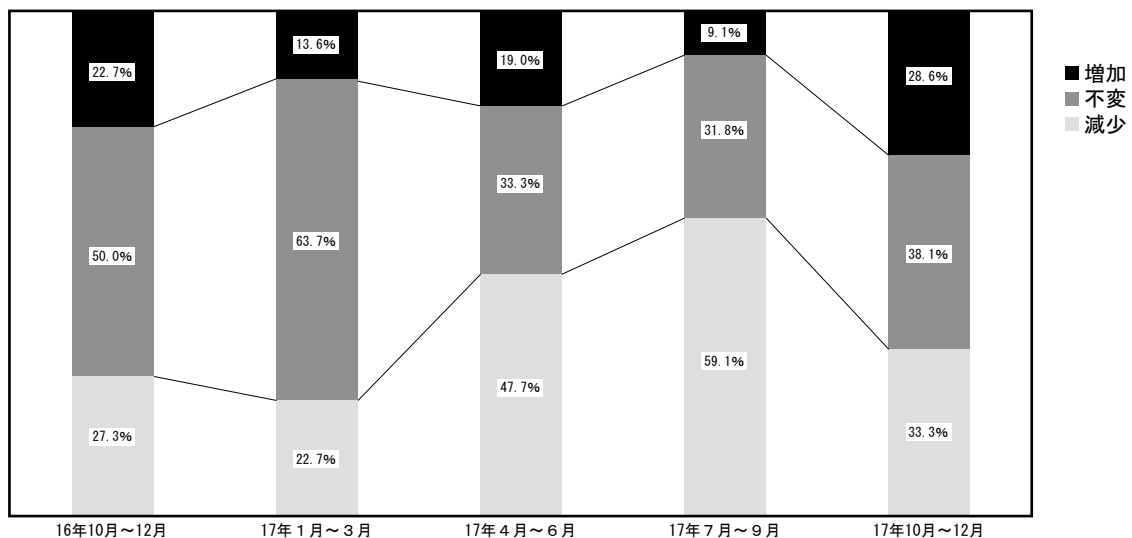
#### 2. 主な項目で見る業況

##### (1) 完成工事額

前期（平成17年7～9月期）より+45.3と大幅に上昇して-4.7まで回復した。株価上昇を背景にした好況感は中小建設業界でも実感として認識されるようになってきているものと見られる。但し、指標の推移は急激な変化であり、今後の推移をみないと好況感が定着するのか否か、不透明なところもある。

山梨県建築指導課で発表している新設住宅着工戸数では平成17年12月の住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家、貸家が増加したため、全体においても増加となったと報告している。新設住宅戸数は718戸で前年同期比で+32.5%増であり2ヶ月ぶりの増加となった。内訳は持家が272戸で前年同期比+23.6%増、貸家が363戸で+212.9%増であり、分譲住宅は82戸で△59.6%の減になった。

山梨県 建設業 完成工事額の状況－前年同期比－

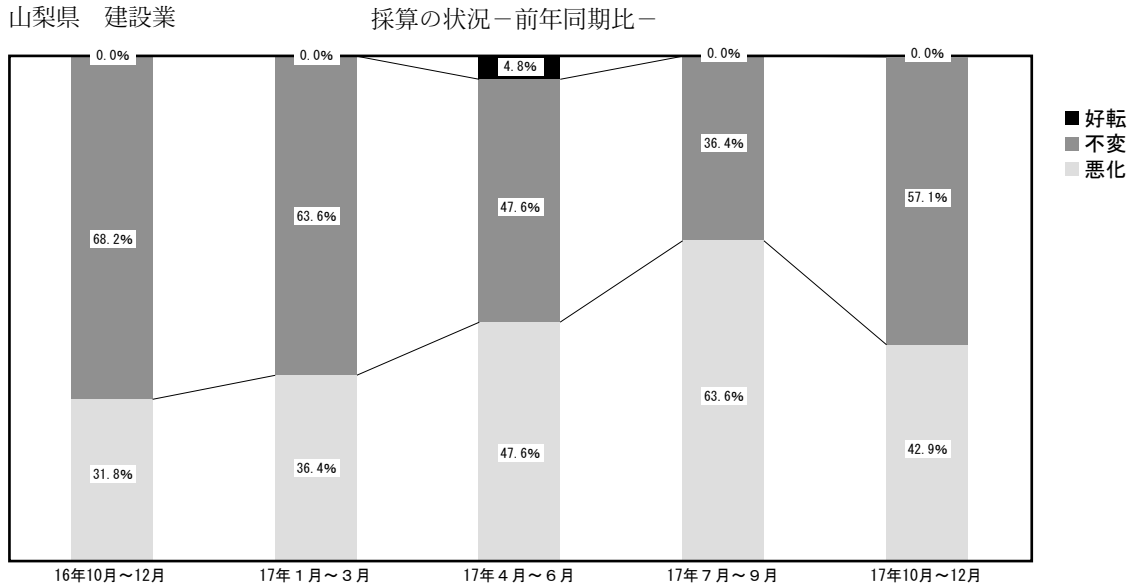


(2) 採算

前期より+20.7上昇して-42.9となった。完成工事額が大幅に上昇したことに連動した結果になっているものと思われるが回復のテンポは若干ゆるやかである。

「従業員（含臨時・パート）」は好調な受注を反映して、前期より+11.1上昇して前年同期比と同じ0.0となっている。

経営上の問題点では4番目に多い項目ではあるが「材料価格の上昇」が多く挙げられてきている。経費の削減は各企業でも重要なテーマとなっているものと思われる。マンション偽装事件でも問題になっているが、建設業の企業としては材料のコスト削減をはかると共に、建築基準法遵守の姿勢で品質の高い業務を実施していくことが高い評価につながっていくものと思われる。



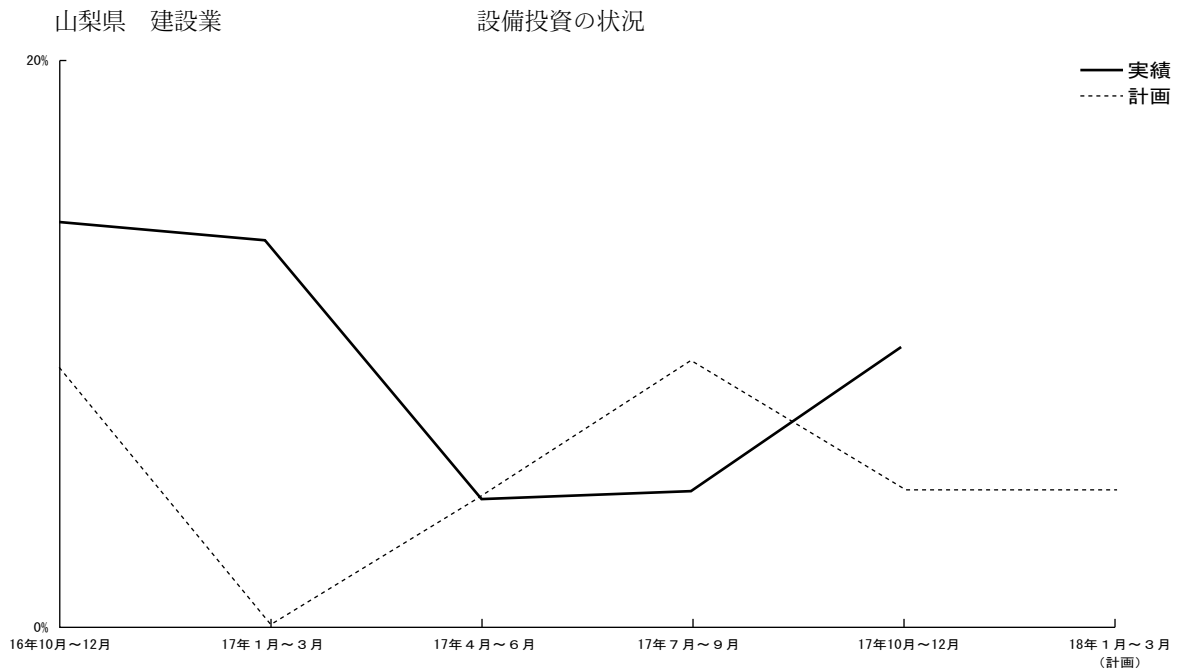
(3) 設備投資

前期より+5.2%増加して10.0%と最近では比較的多くの企業が実施した結果となっている。

計画していた企業は4.8%であったので、実施した企業の方が多という結果であった。

設備投資した内訳は「車両・運搬具」と「OA機器」が50%であった。「付帯施設」は計画はしていたものの、今期に実施するまでには至らなかった。

「来期実施予定」は今期と同様な水準であり、4.8%の企業が計画している。



(4) 経営上の問題点

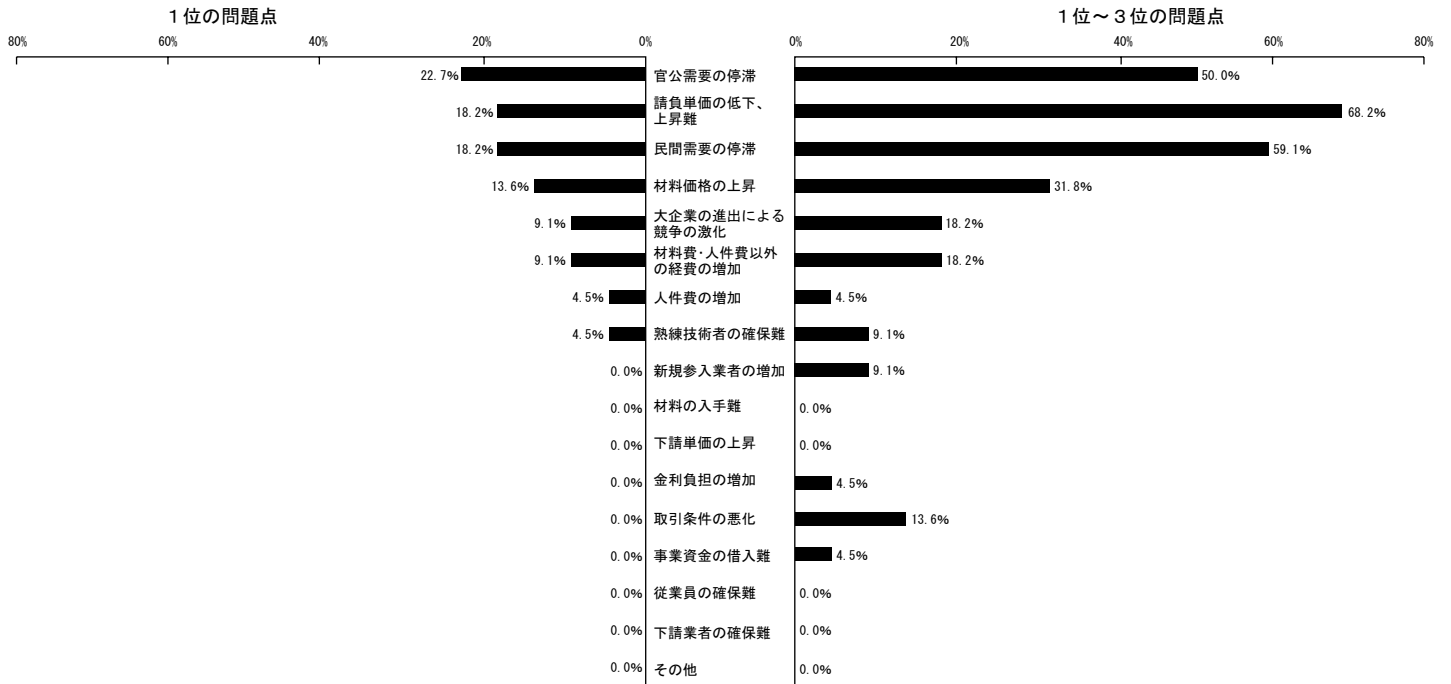
今期も「官公需要の停滞」が△9.1%減少したものの22.7%と1番多い項目である。

その次に多い項目は「民間需要の停滞」であり前期より同じく△9.1%減少したが、「請負単価の低下、上昇難」とともに18.2%と2番目に多い項目となっている。上記各項目とも減少傾向であり受注は好転してきているものと見られる。

問題点として増加傾向なのは「材料価格の上昇」で+9.1%増加して13.6%と4番目に多い項目となっている。業務においては効率的な材料の使用と共に十分な品質の確保を両立していくことが求められている。

山梨県 建設業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



## 4. 小売業の動向

### 1. 景況概況

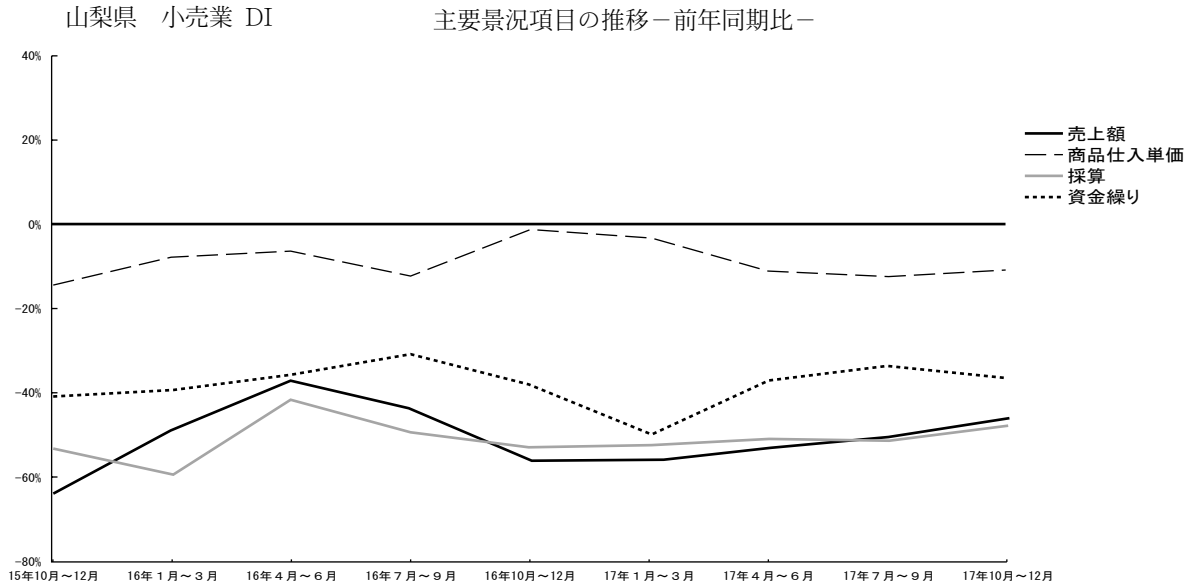
「売上額」は前期より+3.9上昇して-46.1となった。改善傾向ではあるものの製造業などの他業種に比較すると、改善速度はかなりゆっくりとしている。

経営上の問題点では、引き続き「大型店・中型店の進出による競争の激化」を挙げる企業が増加しており、深刻な問題となっている。

「商品仕入単価」は前期より+1.8上昇して-11.1となった。平成17年1～3月期以降では、下降か又は横這いで推移している。

「採算」は売上高と同様に+3.9上昇して-47.6となったが依然として低水準のままである。

「資金繰り」は前期より△3.2下降して-36.5となった。



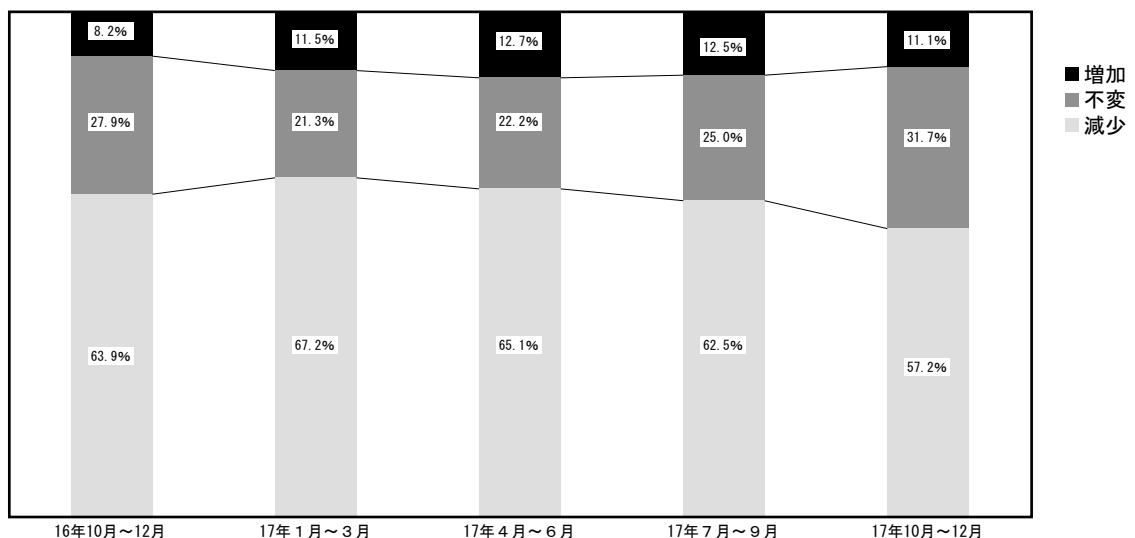
### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

前期に引き続き+3.9%上昇して-46.1となったが他の業種が改善傾向であるのに比較すると依然として低水準のままである。

「客単価」は前期より△3.8下降して-43.5であったが逆に「客数」は+4.6上昇して-54.1であった。経済産業省の商業販売統計速報平成17年12月分によると、全国の小売販売額の動向は前年同期比+1.2%である。業種別では燃料小売業が+10.6%の増加、飲食料品小売業が+1.3%の増加、機械器具小売業が1.3%の増加、織物・衣服・身の回り品小売業が+1.1%の増加、各種商品小売業（百貨店など）が+0.2%の増加となった。一方自動車小売業が△2.9%の減少、その他小売業が△0.7%の減少になったと報告している。

山梨県 小売業 売上額の状況－前年同期比－



(2) 採算

売上高の指標と連動しており、今期も同じように+3.9上昇して-47.6となったが依然として低水準のままである。

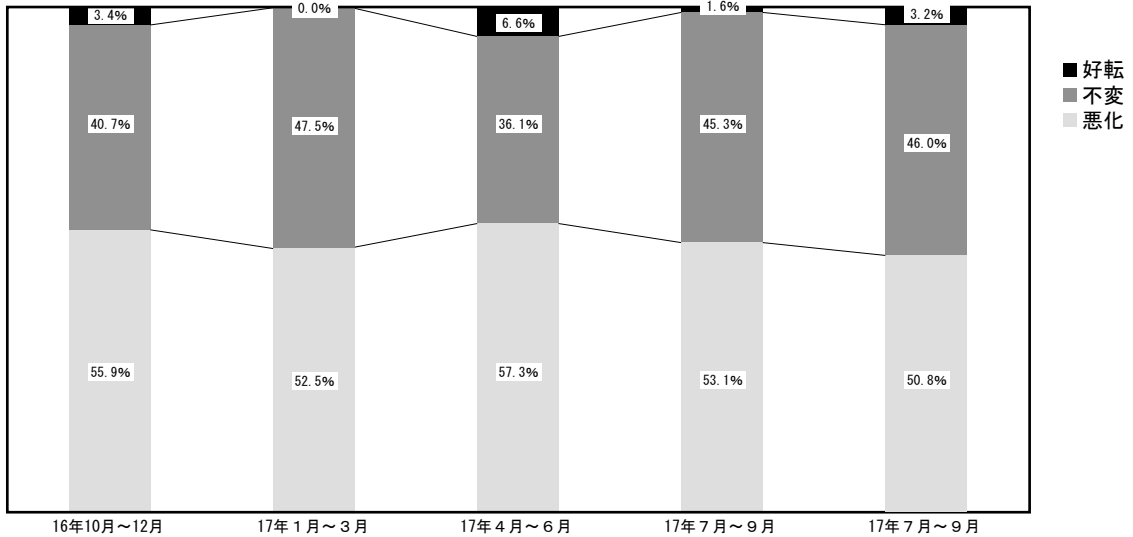
「従業員（含臨時・パート）」の指標は他業種では上昇傾向であるものが多いが、小売業では前期から変化せず前年同期比と同じく0.0のままである。

経営上の問題点では「大企業の進出による競争の激化」を挙げる企業が多くなってきている。今後とも規制緩和は進むものと推察されるので、この傾向は継続していくものと思われる。

既存の店舗としては、特色ある店舗づくりを目指して大型店にはない消費者のニーズに答えていくような、創意工夫が必要と思われる。

山梨県 小売業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

設備投資した企業は前期より+6.3%増加して11.1%となった。計画の段階では4.8%の企業であったので実施した企業は計画段階よりも、かなり多かった。

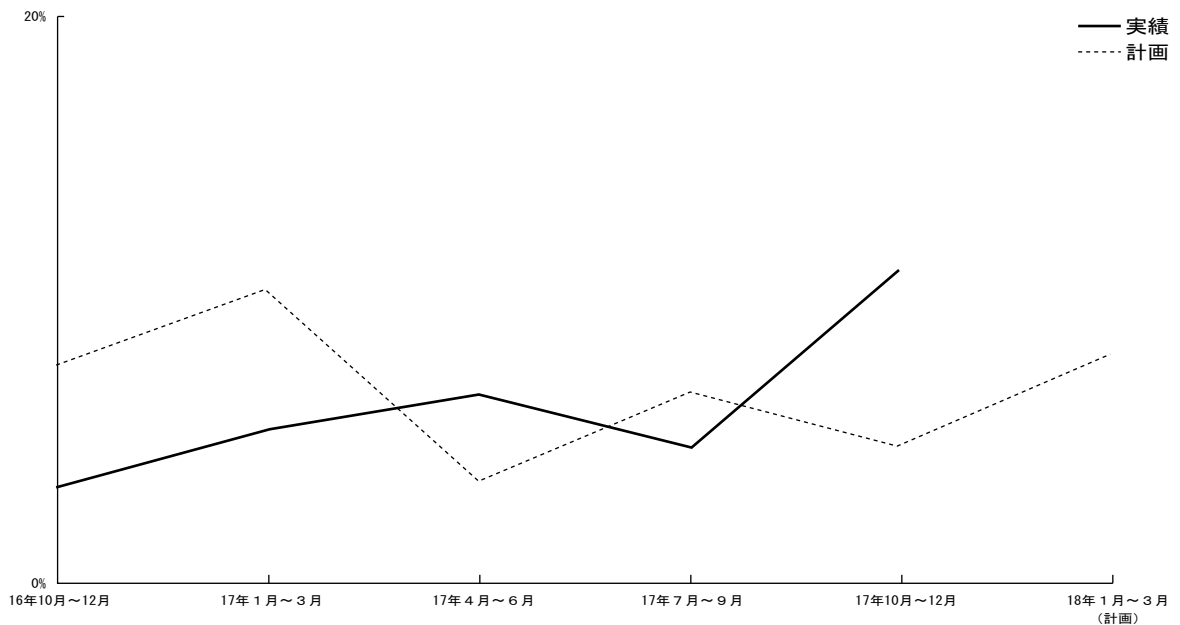
設備投資した内訳は「その他」が42.9%、「OA機器」が28.6%であり「店舗」「販売設備」がいずれも14.3%であった。

「付帯施設」については計画はしていたものの今期は実施までには至らなかった。

「来期実施予定」は8.1%と今期より計画をしている企業が増加する予定となっている。

山梨県 小売業 DI

設備投資の状況



(4) 経営上の問題点

「大型店・中型店の進出による競争の激化」は前期より+13.8%増加して48.3%と一番多い項目となっている。問題点として増加傾向であり既存店としての特色を出した店舗づくりが求められている。

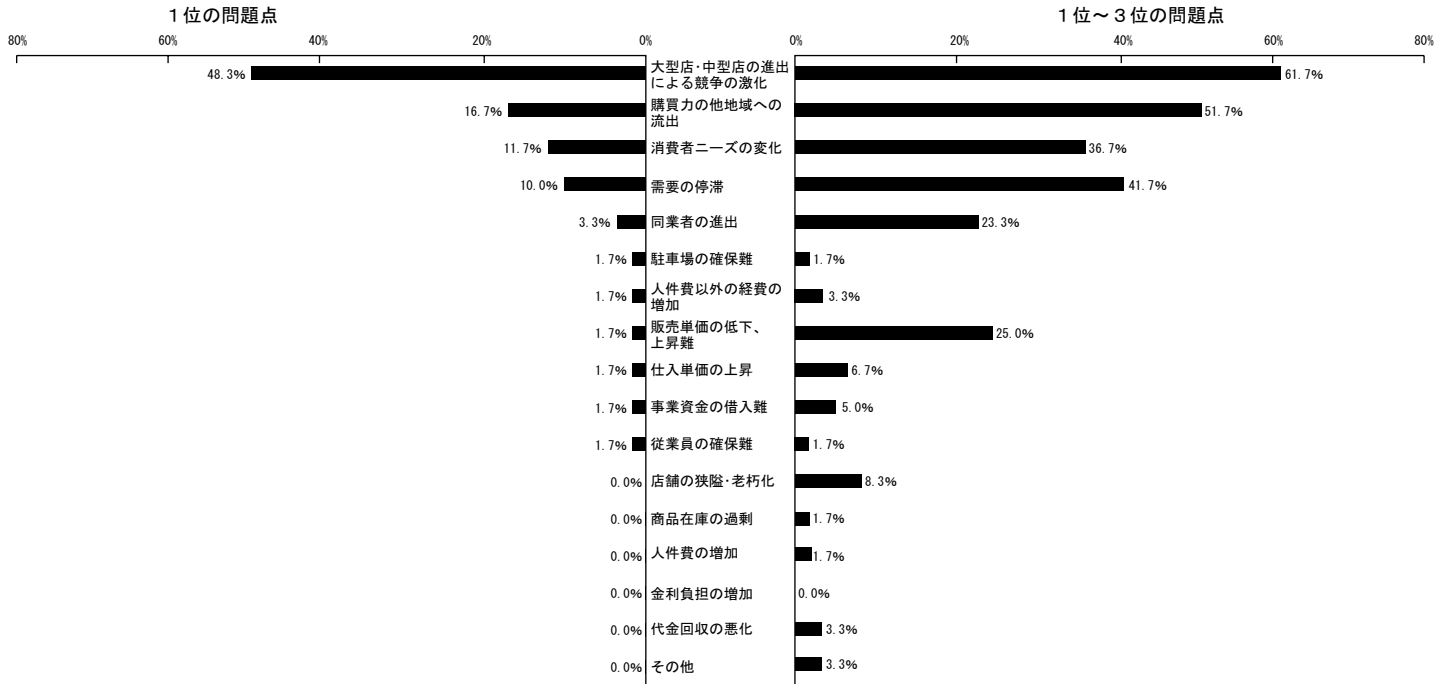
2番目に多い項目は前期と同じく「購買力の他地域への流出」であり前期から△4.0%減少したが16.7%となっている。

3番目に多い項目は「消費者ニーズの変化」であり、△2.1%減少したが11.7%となった。

4番目に多い項目は「需要の停滞」であり+1.4%増加しており10.0%となっている。

山梨県 小売業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



## 5. サービス業の動向

### 1. 景況概況

「売上額」は前期（平成17年7～9月期）より△17.0下降して-65.6となった。他業種では株価上昇に連動した好況感から回復傾向であるが、サービス業界だけは下降した結果になっている。

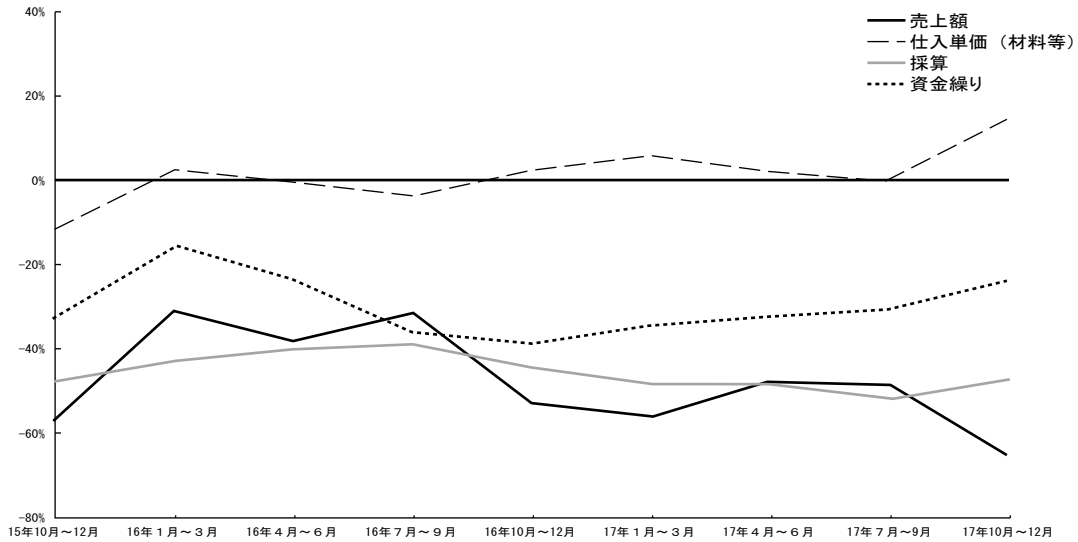
「仕入単価（材料等）」は前期より+14.7上昇して14.7となっている。特に燃料単価が上昇しているといわれ経費増の要因となっている。

「採算」については+4.5上昇して-47.1と前期までは連続4期右肩下がりで推移してきたが今期は上昇に転じた。

「資金繰り」は今期も+6.7上昇して-23.6となっており、前期に引き続き改善した結果となっている。

山梨県 サービス業 DI

主要景況項目の推移－前年同期比－



### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

前期（平成17年7～9月期）より△17.0下降して-65.6となった。前期は横這いであったが今期は下降した結果となっている。

「客単価」は前期より△4.7下降して-37.1であり、「客数」も△4.8下降して-60.6となっている。両指標とも下降した結果となっている。

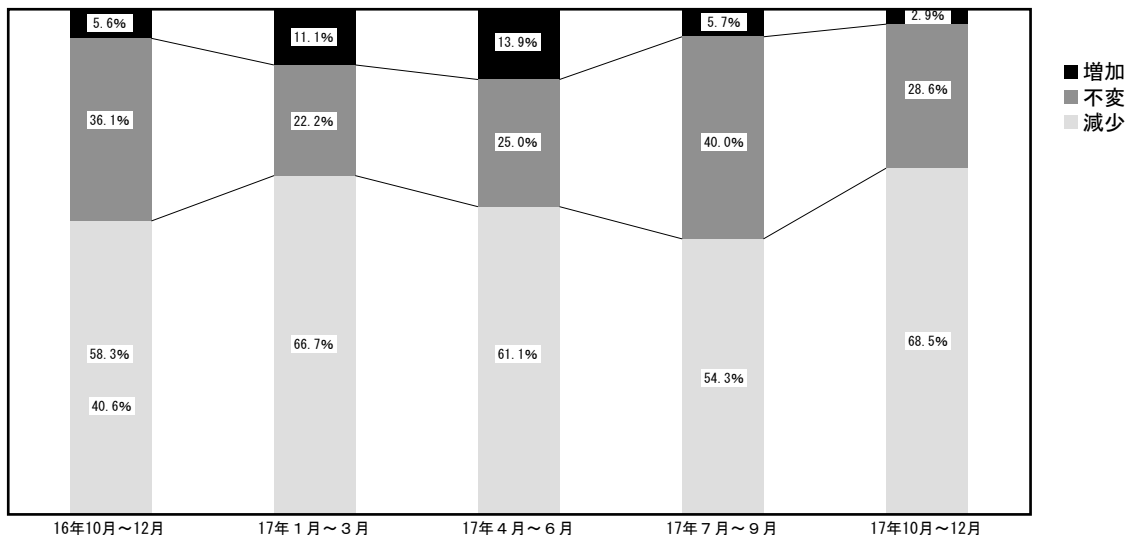
厚生労働省山梨労働局が発表した平成17年12月の有効求人倍率は前月より0.08%上昇して、1.17倍となり7年11ヶ月ぶりの水準に回復したと報告している。また全国の有効求人倍率は前月の0.99倍から上昇して1.00倍である。

好調な企業業績を反映し、企業の求人意欲が好転し、雇用情勢の改善につながっていると分析している。

こういった状況を背景に、今後は県内中小サービス業界でも需要の増大が期待される。

山梨県 サービス業

売上額の状況－前年同期比－





(2) 採 算

前期より+4.5上昇して-47.1となった。売上額は下降したもののそれには連動せず上昇した結果となっている。

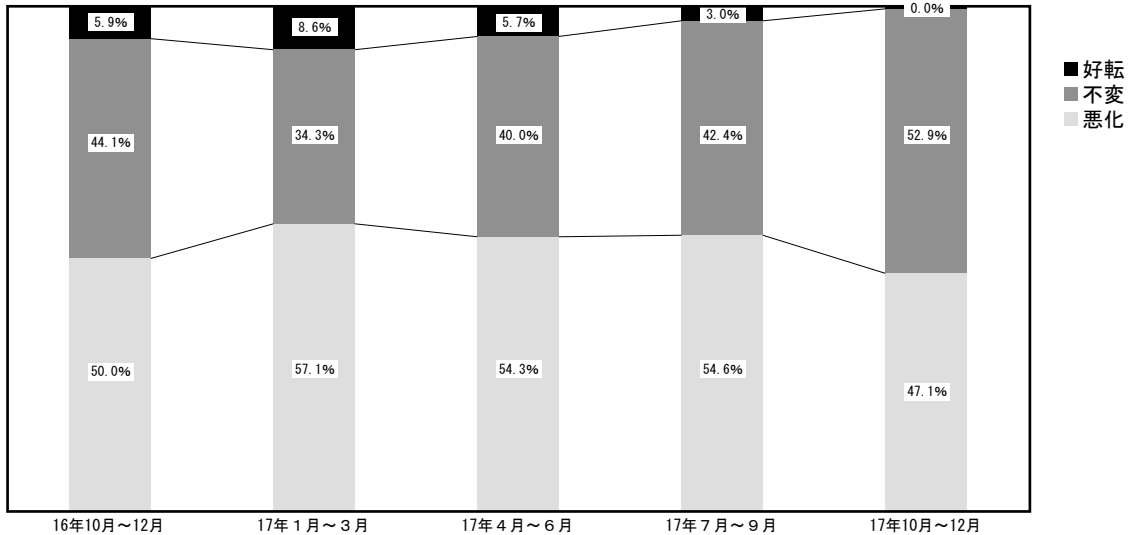
「従業員(含臨時・パート)」は前期より+2.9上昇して-3.4となっており前期に引き続き増加傾向となっている。

経営上の問題点では「需要の停滞」の次に「新規参入業者の増加」が項目として多くの企業で挙げられている。

企業のリストラや終身雇用制の崩壊などで、起業を目指す人が多くなってきているものとみられる。先行する企業のメリットを明確にしていくためにも、自社のノウハウの積み上げに努力していく経営姿勢が求められているものと思われる。

山梨県 サービス業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

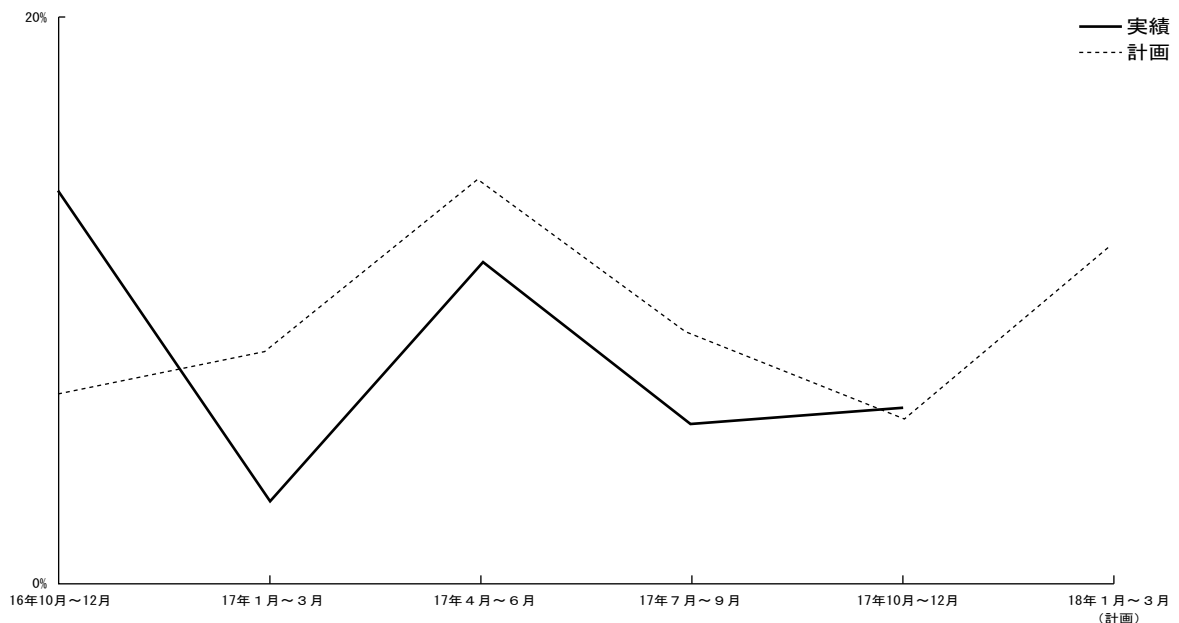
「今期実施」した企業は、前期より+0.5%とわずかに増加して6.2%となった。計画していた企業は5.9%であったので実施した企業とほぼ同数であった。

設備投資した内訳は「土地」「サービス設備」がいずれも50.0%であった。「付帯施設」「OA機器」については計画はしていたものの実施までには至らなかった。

来期「計画している」企業は今期計画した企業より増加する予定であり、12.1%の企業となっている。

山梨県 サービス業

設備投資の状況



(4) 経営上の問題点

「需要の停滞」は前期より+6.1%増加して30.3%と一番多い項目となっている。

次に多い項目は「新規参入業者の増加」であり+12.1%増加して24.2%となっている。業種的には開業しやすい仕事が多いので、退社した社員が新規参入してくる場合が多いのではと思われる。

その次に多いのは「利用者ニーズの変化」であり△6.0%減少したが18.2%と3番目に多い項目となっている。

経営上の問題点で1位から3位までに挙げられる項目では、「利用料金の低下、上昇難」が+3.0%上昇して42.4%と3番目に多い項目となっている。

山梨県 サービス業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）

